

学校番号	学 校 名
5 1	恵那農業高等学校

学校教育目標	1 生徒一人一人が持つ可能性を引き出し、個性を最大限に伸ばす指導に努めます。 2 社会人として必要な基礎・基本を身に付けさせ、自立した人間を育てる指導に努めます。		
スクールポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	明るく元気で、しっかりあいさつができる生徒 規律を守り、自らの行動に責任の持てる生徒 地域から信頼され、地域から愛され、地域と共に歩む生徒 地域社会の発展、地域産業の発展に貢献できる生徒	将来の農業のスペシャリストを目指して、より高度な専門性の定着を行う 基礎・基本の徹底を図り、生徒が持つ特性や可能性を最大限に伸ばす指導の実施をする 日々の授業を大切にし、学習活動を様々な角度から適切に評価する	自ら学び自ら考え、他者と協働しながら主体的に学びたい生徒 生命体を扱う農業に関心があり、生命の尊さや豊かな心を持つ生徒 地域を愛し、地域と連携した活動に意欲を持つ生徒
< 教育指導の重点 > 今年度の具体的な重点目標	重点目標の達成に必要な具体的取組、方策		達成度の判断、判定基準あるいは評価指標
1 【教科指導】 学習環境を整え、自主的な学習態度を育成し自己教育力の向上を図ります	<p>①学習指導と授業研究・職員研修の充実に努めます。 ○生徒や地域の実態にあった教育課程、また授業形態（TT、分割など少人数指導）を設定し、その効果検証をします。 ○授業研究週間を設定し、指導力向上のため授業改善に努めます。 ○新指導要領に対応した、公平で形成的な評価とその方法について研究します ○生徒が主体的に授業の規律やマナーを守ることができるよう働きかけます。</p> <p>②学習の定着と基礎学力の定着に努めます。 ○教材を効果的に活用し、基礎学力向上、さらには自主学習に向かう支援の手立てを教科・学科を超えて研究・実践をして共有します。 ○教材の活用に関する研修を行い、効果的に活用し生徒の力を高めるよう指導します。</p> <p>③情報ネットワークと機器を生かし、生徒の主体的な学びを育てる基盤を構築し、運用について研究と実践をすすめます。 ○情報ネットワークと機器運用において、個人情報などコンプライアンスを守りかつ正確で効率的な方法を研究・実践します。 ○情報の受け手の機器やアプリケーションを意識した情報発信の方法を調査研究し、必要の人に、必要な情報を受け取ってもらえる学校の情報発信を実現します。</p>		<p>① Check1 生徒の実態に応じた授業ができていないかの検証がなされたか→ Check2 授業力の向上を図る取組ができたか→ Check3 評価方法を研究し、実施できたか→ Check4 生徒の主体性を高める働きかけができたか→ 「理由」</p> <p>② Check1 教材を効果的に活用することができたか→ Check2 生徒への効果について検証し、改善へ向けることができたか→ 「理由」</p> <p>③ Check1 ICTを活用した授業ができたか→ Check2 情報機器・ネットワークの利用に係るコンプライアンスが守れたか→ Check3 情報の受け手に合わせた学校情報を発信できたか。→ 「理由」</p>

<p><b>2 【生徒指導】</b> 共感的な生徒理解に努め、他者を思いやる心、自らの行動に責任を持ち正しく判断できる態度を育成します。</p>	<p>①生徒への声かけや対話を通じた個と集団への働きかけにより、自己理解力やコミュニケーション力、人間関係形成力など社会的資質・能力を育てます。（発達支持的生徒指導） ○生徒個人やクラス・部活動等の集団に対して、対話的な声かけに努めます。 ○LHRを活用して、生徒の社会的資質・能力の向上を図ります。</p> <p>②いじめ防止、SOSの出し方（自殺予防）、薬物乱用防止、情報モラル教育の実施により未然防止に努めます。（課題予防的生徒指導（課題未然防止教育）） ○外部講師による、様々な課題における防止教育を実施し、未然防止に努めます。</p> <p>③生徒の小さな変化を見逃さず、問題の早期発見と組織的な早期対応に努めます。（課題予防的生徒指導（課題早期発見対応）） ○教育相談の充実、気づきシートの活用を通して生徒の情報を、学科・学科群、学年、校務分掌、部活動などの組織を超えて情報共有するよう配慮します。 ○いじめ等、問題には組織で対応します。</p> <p>④指導に特別な配慮を要する生徒に対する個別支援、校外の専門機関と連携した対応に努めます。（困難課題対応的生徒指導） ○特別な配慮を要する生徒に対する支援・指導は個別に対応します。 ○専門機関との連携した対応に努めます。</p>	<p>① Check1 職員の共通理解・共通実践ができたか→ Check2 LHRを活用することができたか→</p> <p>② Check1 各種防止教育を実施できたか→</p> <p>③ Check1 教育相談、気づきシートを活用して、組織を超えて生徒情報を共有できたか→ Check2 いじめ問題を組織で対応できたか→</p> <p>④ Check1 個別の対応ができたか→ Check2 専門機関との連携ができたか→</p>
<p><b>3 【進路指導】</b> 自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路選択出来る能力と態度を育成します。</p>	<p>①正しい勤労観や職業観の育成を図り、地域社会人としての自覚を促します。 ○各学年において体験的な学習（インターンシップなど）を群や学科との協力体制で行います。</p> <p>②社会人として、主体的なコミュニケーションが出来る生徒を育てます。 ○職員が範を示します。 ○「あ」かるく、「い」つでも、「さ」きに、「つ」づけて、の合い言葉で、生徒が日常生活の中で、自然発生的に、挨拶ができるようにします。</p>	<p>① Check1 体験的な進路学習を実施できたか→ 「理由」</p> <p>② Check1 職員が挨拶の範を示したか→ 「理由」</p>

	<p>③地元企業で、学科の専門性を活かせる求人の積極的確保をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学科が、進路先で「活かしてほしい専門性」を進路指導部と3年学年会が正しく知ります。</li> <li>○その上で、職員が直接出向き、進路先担当者との信頼関係を築くことで、求人確保します。</li> </ul> <p>④四大と看護系進学希望者、および公務員希望者に対する個別指導を充実します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の補習体制を教科担当者をつないで作ります。</li> <li>○生徒ごとに、個別の進路面談などを実施して、学習に対するモチベーションを支えます。</li> <li>○進学先の過去問題、問題集など、個別に準備して、必要なときに利用できるようにします。</li> </ul>	<p>③</p> <p>Check1 進路指導部、3年学年会の職員は、学科が「活かしてほしい専門性」を正しく知ったか→</p> <p>Check2 職員が企業に直接出向く頻度を高められたか→ 「理由」</p> <p>④</p> <p>Check1 四大・看護系について、進路ごと、生徒ごとの個別の補習体制を作ったか→</p> <p>Check2 面談などで生徒ごとの学習に対するモチベーションを支えたか→</p> <p>Check3 進学先に合わせた教材が準備できたか→ 「理由」</p>
<p>4 【部活動指導】</p> <p>生徒と共に活動する中で、部活動の活性化を図り、健康な心身と協調性を養います。</p>	<p>①生徒が積極的に活動できるように、部活動の推進に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体的に活動できる環境を整えます。</li> <li>○部活動ガイドラインを遵守し、部活動を通じて豊かな人間関係を築きます。</li> </ul>	<p>①</p> <p>Check1 生徒が主体的に活動できる方策をとったか→</p> <p>Check2 部活動ガイドラインを遵守できたか→ 「理由」</p>

<p>5 【地域貢献】</p> <p>地域社会の発展に貢献できる社会人を育成する。また、これを具現化するため学校運営協議会等による適切な助言を受けながら生徒支援を行います。</p>	<p>① 「地域から信頼され、地域から愛され、地域と共に歩む」農業高校を目指すとともに、地域を愛し、地域の発展に貢献できる人材を育成します。</p> <p>○ふるさと教育を通して、地域と連携し地域課題の解決に取り組みます。</p> <p>○課題研究や専門科目を通して、地域農業や産業の学びを深め、地域の将来を考えることができ地元企業等で即戦力となるような人材の育成を目指します。</p> <p>② 課題研究活動等を通して、地域が抱える農業や環境分野あるいは福祉分野での課題を設定し、主体的、積極的に解決していく能力や態度を育成します。</p> <p>○地域社会、産業界と連携し地域課題を発見・解決する学びを推進します。</p> <p>③ 国際理解の学習及び国際交流事業を通して、グローバル社会で活躍できる国際的な視野をもった人材の育成に努めます。</p> <p>○語学力の向上とコミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>○海外研修や留学生や派遣生との交流など国際交流事業に積極的に参加することによりグローバル人材の育成を図ります。</p>	<p>①</p> <p>Check1 地域の発展に貢献できる研究テーマを設定して組織的に活動できたか→</p> <p>「理由」</p> <p>②</p> <p>Check1 地域の方々と交流する姿勢を育み、地域の安全と安心に対する意識を高められたか→</p> <p>「理由」</p> <p>③</p> <p>Check1 積極的に語学学習に取り組み、資格取得者が増加したか→</p> <p>「理由」</p> <p>Check2 積極的に国際交流事業に参加することができたか→</p> <p>「理由」</p> <p>Check3 積極的に県及び市の交流事業に参加することができたか→</p> <p>「理由」</p>
--	--	--